

# 令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀市立春日北小学校	児童数 552人
-----	------------	----------

## I.取組前の宣言内容

宣言	目標	読書の世界を楽しもう！広げよう！
	取組期間	令和6年(2024年)4月8日～令和6年(2024年)11月30日

## II.取組後の評価

評価	取組人数	552人	実施日数	237日	読書冊数	53059冊	連携した団体数	0団体
	取組内容(概要)	(1) 楽しい図書館を目指した取り組み (2) 読書意欲を高める取り組み (3) 使いやすい図書館を目指した取り組み						
	工夫したこと	<p>4月に図書委員と図書館司書、図書館担当教員とで委員会活動の時間を中心に、今年度の活動内容について話し合った。その中で、「全校のみんなと本とのつながりを大切にしていきたい。」「本の世界を楽しむ場としての図書館にしたい。」という考えが出た。これらの意見から、図書委員の方から積極的に読書の楽しさを伝えることで、本と児童との結びつきを築いていこうという考えにまとまった。本を読む喜びを知ってほしいと考えたこの目標に向けて、読書の楽しさを様々に工夫して全校児童に紹介することに努めていった。</p> <p>(1) 楽しい図書館を目指した取り組み</p> <p>①年2回の「としょかんまつり」を図書委員で企画した。まつりの案内とスタンプラリーのプリントを全校児童に配布し、開催中は図書委員が毎日放送で来館を呼び掛けて図書館に来るきっかけ作りを行った。以下の催しを行った。</p> <p>6月:「スタンプラリー」「としょかんビンゴ」「てるてるぼうずのしおり」「まちがいさがし」「ぬりえ」「4コマまんがをつくろう」</p> <p>11月:「スタンプラリー」「運動会の赤青黄組対抗の貸出競争」「としょかんクイズ」「まちがいさがし」「本さがし」</p> <p>②児童玄関と図書館の棚の2か所に「おすすめの本」を紹介している。「おすすめの本」は、その月にまつわるテーマの本やメディアなどで話題の本を図書館司書が選書したものである。図書館で紹介している本は「ラッキーブック」として、読むとスタンプを押し、スタンプを集めると貸し出し券をプレゼントするようにしている。また、「としょかんまつり」の時期には、図書委員や教員が選書した「おすすめの本」を「ラッキーブック」とした。</p> <p>③来館した児童の読書意欲を誘うように、季節や行事、社会の時事、流行に沿って図書館内の飾りつけや配架を絶えず変化させた。体育の日や運動会の前などにはスポーツ関係の本を、ハロウィンの時期にはカボチャの飾りつけ等、絶えず変化する図書館とした。</p> <p>(2) 読書意欲を高める取り組み</p> <p>4月に図書委員を中心に各学年に応じた本の内容等を考慮して話し合いを行い、低学年120冊、中学年100冊、高学年80冊という1年間の貸し出し目標を設定した。</p> <p>① 図書館の廊下には貸出冊数が増えるごとに名前を書いたりんごの実の色が変</p>						

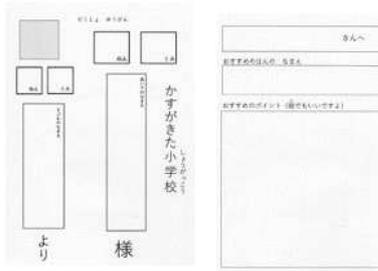
		<p>わる「どくしょの木」のコーナーを設けて、自分の貸出冊数がどれくらいなのかを誰もが把握できるようにした。また、りんごの実と一緒にもらう券を校長室へもって行くと、ごほうびシールを校長先生から直接もらえるようにした。これを楽しんでいた児童も多くいた。</p> <p>② 本の冊数に応じてくじ引き券やガチャガチャ券をプレゼントした。500冊を借りた児童には手製のトロフィーを渡している。学級のクラスメートの前でこれらの券を渡すようにした。</p> <p>③ 毎学期、終業式に全校で貸出冊数が多い児童上位10名に多読賞の表彰を行った。放送で全校児童に多読者の名前を知らせ、校長室で校長先生から賞状を手渡すようにした。</p> <p>④ 各学年ごとに読んでほしい本を「どくしょチャレンジ」として必読図書とし、これを読むと台紙にスタンプを押し、すべて読んだ児童にはプレゼントを渡すようにしている。</p> <p>⑤ 6月の「としょかんまつり」では「分類ビンゴ」を行った。指定された分類番号の本を借りるとビンゴカードにスタンプを押しもらい、ビンゴになるとくじ引きができるようにした。子どもたちが借りる本は9類に偏りがちであるため、いろいろな分類の本を手にする機会となるようにした。</p> <p>⑥ 図書の時間に読み聞かせや本の紹介をすることで本への興味を高めた。</p> <p>(3) 使いやすい図書館を目指した取り組み</p> <p>① 整理しやすいように本の配置を工夫した。書架から別置されていた小型の本や大型の本、人気の本には片付けの際に間違いが多かったため、目印となるラベルを付けた。また、書架の配置を分類番号順になるように変更した。</p> <p>② 分類を知ることで、子どもたちが自分たちで使いやすい図書館にできるように工夫した。各クラスの図書の時間に本の分類について説明した。分類を知ることで、1年生は物語の本を返せるように、2,3年生は借りた本を自分で棚に返せるように、4年生以上は読みたい本を分類から探すことができるようになることを目標にした。1学期は返却用のブックトラックに本を返していた児童も、分類の知識をもとに自分で本棚に本を戻すことができるようになった。自分が借りていない本でも、ブックトラックから本棚に本を戻してくれる児童もいた。</p> <p>③ 子どもたちが豊富な種類の本に触れることができるように工夫した。資源流通便を活用して市立図書館や他校から調べ学習等で使用する本を集めた。学期ごとに教職員に学習に活用する図書の希望アンケートを採り、学習活動の前に必要な資料を集めることができるようにした。</p>
	<p>取り組んだ感想</p>	<p>「図書委員をやってみて一番思い出に残ったことは、たいへんだったけど、とても楽しかったことです。貸し出し、返却のカウンターの仕事ははじめてのときはとてもきんちょうしたけれど、バーコードを読みこなすのも、とても楽しかったです。そして、本棚を整理する仕事も、はじめはいやだったけど、やってみるとけっこう楽しくてとてもよかったです。ほかにも楽しいことはいっぱいありました。」「6月と11月のとしょかんまつりが楽しくて、一番の思い出です。それは準備が楽しかったからです。各曜日でクイズや本探し、4コマまんがなどのいろんな楽しいイベントをするために、図書委員の仲間と話し合いをして、みんなの意見を聞いて、どんなことをしたいかなどを決めて、準備に取り組んでまつりを行いました。それと、低学年の人たちがたくさんとしょかんまつりに参加してくれたことがうれしかったです。」という図書委員の言葉が、活動後の感想に書いてあった。今年度の全校の貸し出し冊数は、昨年度の11月までと比較して、1万冊以上も増加している。これは図書館が『読書の世界を楽しもう！広げよう！』をテーマに掲げて様々な活動を行ったことで、全校児童に読書意欲を喚起した成果である。</p>
	<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<p>図書委員と図書館司書、図書館担当教員と話し合いながら、「読書チャレンジ」に応募することを大きな目標として、今年度、様々な活動に取り組んできたが、その効果は確実にあった。委員会活動としての図書委員の自主性も大切にしながら、本校児童にとって豊かな読書が日常になるように、これからも活動を工夫していきたい。</p>

(1) 楽しい図書館を目指した取組

①としょかんまつりの様子(抜粋)



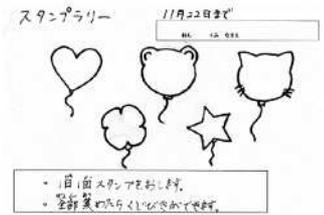
てるてるぼうずの型紙に絵をかいて自分だけのしおりをつかった。しおりは図書館で掲示した後、返却した。カラフルなてるてるぼうずたちは、梅雨の時期の図書館を明るくしてくれた。→



←読書郵便は初めての取り組みだったので、図書委員会が全クラスに説明に行った。宛名の書き方などを丁寧に説明したため、混乱することなく、1年生から楽しめた。



↑自分のオリジナルの4コマまんが。高学年にも人気があり、たくさんの作品が応募された。



↑スタンプラリーは集めた数で貸出券がもらえ、全部集めるとくじびきができる。

②児童玄関や図書館で紹介するおすすめの本



↑児童玄関の毎月のおすすめの本



↑ラッキーブックを借りるとスタンプを押してもらえる。



↑図書委員のおすすめの本



↑先生のおすすめの本

←先生のおすすめの本は特に人気があり、あっという間に借りられていた。

③季節の詩の飾りつけ

季節の詩は毎月のおすすめの本である「ラッキーブック」と一緒に掲示している。季節の詩と一緒に掲示することで、ラッキーブックを手にするきっかけとなっている。→

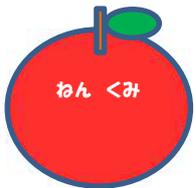


(2) 読書意欲を高める取組

①どくしょの木



りんごの色	貸出数
赤	30冊
黄	60冊
橙	90冊
緑	120冊
青	200冊
紫	300冊
黒	400冊
白	500冊



↑りんごの実印刷したものを図書委員会で切っている。

↑【どくしょの木】貸出数 30冊、60冊、90冊、120冊、200冊、300冊、400冊、500冊と増えるごとにりんごの色が変わる。

【ご褒美シール】読書の実をもらう時に一緒に『校長先生からのご褒美シールの引換券をもらう。休み時間に校長室に行くと、校長先生からご褒美シールがもらえる。子どもたちは校長先生からシールをもらって褒めてもらうことを楽しみにしている。→



②冊数に応じた賞品

- 50冊：貸出券
- 100冊：しおりくじびき
- 150冊：貸出券入れくじ引き
- 200冊：マグネットしおりガチャガチャ
- 300冊：選べる特別貸出券入れ
- 400冊：選べる付箋ケース
- 500冊：トロフィーと賞状
- 600冊：トロフィー（大）と賞状



【100冊達成くじびき】↑  
 100冊達成時はしおりとプラス貸し出し券が入っている。大きなくじ引きの箱なので、初めてくじを引く時は、びっくりして喜んでいる。

【200冊達成ガチャガチャ】→  
 マグネットしおりとプラス貸し出し券が3回～5回分入っている。ガチャガチャを回す時はどの学年の児童も嬉しそうである。



③多読賞の表彰

全校に放送で紹介され、校長室で校長先生より表彰を受けることができ、子どもたちの自信につながっている。自分の目標冊数に向かって読書をする事ができている。→



④必読図書「読書チャレンジ」

必読図書は長く読み継がれている本や、教科書で紹介されている本などを中心に選書している。子どもたちが必読図書にチャレンジすることで、読書の幅を広げたり、質を高めたりする手助けとなっている。→



⑤としょかんビンゴ



どくしょビンゴ 4・5・6年

本のカバルの色で本をかりてみましょう。  
 スタンプをおしします。ピンゴはまるがなす。

E	4類	7類
絵本	動物・生き物	芸術・スポーツ
2類	ブックチャレンジの本	こわい本 平和の本
933	913	3類
外国の地図	日本の地図	社会

※別表のから、なしでしけん、プレゼント

年 組

←としょかんビンゴは指定された分類番号の本を借りると、ビンゴカードにスタンプを押してもらえる。全て揃うとくじ引きができる。いろいろな分類の本を借りるきっかけとなった。